

早めの避難があなたの命を救います

災害から自分の身を守る最善の方法は、災害が発生する場所に居合わせないことです。
大雨や台風などの影響で危ないと感じたときは、町や消防、警察などの指示がなくても早
めに安全な場所に避難するように心がけましょう。
避難が遅れた場合は、避難する際に被災する可能性がありますので、無理な移動は避け、
近隣の高い建物や自宅の2階などより安全な場所に避難するようにしましょう。

自分の地域から一人の犠牲者も出さない

あなたが、躊躇なく懸命に自分の命を守り逃げる姿は、まわりの人的心や体を動かします。
それが防災の基本であり、地域から犠牲者を出さないことにつながります。

インターネットを利用した情報提供

特別警報、雨量、水位などの気象情報や避難勧告等の避難情報をリアルタイムで確認することにより、災害時に迅速・的確な避難が可能となります。

日頃から情報の収集方法を確認し、災害時に混乱しないよう気をつけましょう。

気象庁

<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>



国土交通省「川の防災情報」

・パソコンから <http://www.river.go.jp/>



島根県「しまね防災情報」

<http://www.bousai-shimane.jp/>



島根県水防情報

・パソコンから <https://www.suibou-shimane.jp/pc/map/top.html>



・携帯電話から <https://www.suibou-shimane.jp/m/>



・スマートホンから <https://www.suibou-shimane.jp/s/>

川本町HP

<http://www.town.shimane-kawamoto.lg.jp>

POTEKA NET（矢谷、湯谷、小谷の雨量情報）

<http://www.potekanet.com/index.php>

発行:川本町

制作・著者:株式会社ゼンリン 広島営業所

作成:令和3年3月

「この地図は島根県が作成した森林基本図1:5,000を原図とし、島根県知事の承認を得て使用したものである。」
(承認番号 平成31年1月23日付け指令森第1404号)

川本町

保存版

防災マップ



本書の使い方

本書は、いざ起こるかもしれない様々な災害に対し、事前に備えることを目的として作成しました。予測不可能な災害の被害を最小限にとどめるため、常日ごろ内容に目を通し、理解を深めていきましょう。

【本書の特徴】

本書は、災害時に持ち運びができるように冊子型として作成しました。通常は、地図部分や「わが家の防災・緊急情報メモ」ページを開いた状態で、壁などにピン留めして掲示するか、ヒモなどで吊るし身近に置き、緊急時に持ち出してご活用ください。

索引

| | |
|-----------------------------|-------|
| 本書の使い方・索引 | 1 |
| 特別警報 | 2 |
| 災害に関する情報・災害に備えて | 3 |
| 洪水に備えて | 4 |
| 情報の伝達と入手手段 | 5~6 |
| 指定緊急避難場所・指定避難所について | 7 |
| 災害時の避難先・緊急時連絡先一覧 | 8 |
| 江の川川本観測所の水位毎の浸水状況 | 9 |
| 自宅の災害リスクと災害時のとるべき行動を確認しましょう | 10 |
| 土砂災害索引図 | 11~12 |
| 詳細図 | 13~16 |
| 土砂災害マップ | 17~32 |
| 洪水災害索引図 | 33~34 |
| 洪水災害マップ | 35~38 |
| 風水害対策 | 39 |
| 大雨などによる災害の種類 | 40 |
| 非常時持出品の準備&チェック | 41 |
| わが家の「防災・緊急情報」メモ | 42 |

特別警報をご存知ですか？

特別警報は、大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする新しい警報です。
普段からの備えと早め早めの行動があなたや身近な人の命を守ります。

特別警報の発表基準

| 現象の種類 | 基 準 |
|-------|--|
| 大雨 | 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合 |
| 暴風 | 数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により暴風が吹くと予想される場合 |
| 暴風雪 | 数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合 |
| 大雪 | 数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合 |

表中の”数十年に一度”の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

大津波警報などを特別警報に位置づけます

| 現象の種類 | 基 準 |
|-------------|---|
| 津波 | 高いところで3メートルを超える津波が予想される場合（大津波警報を特別警報に位置づける） |
| 火山噴火 | 居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合 (噴火警報(噴火警戒レベル4以上)及び噴火警報(居住地域)を特別警報に位置づける) |
| 地震 (地震動) | 震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合 (緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける) |

特別警報が 発表されたら

- ・尋常でない大雨や津波等が予想されています。
- ・重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ・ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

命を守るために情報の収集に努めてください

特別警報は、自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。



- ・「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。
- ・これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。
- ・普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

※気象庁HPより一部を抜粋して掲載

気象庁

〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4

電話: 03-3212-8341 FAX: 03-6689-2917 (耳の不自由な方向け)

気象庁ホームページ

<https://www.jma.go.jp>



特別警報について

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/tokubetsu-keiho/>



災害に関する情報

| 警戒レベル | 状況 | とるべき行動 | 避難情報等 |
|------------------------------|----------|----------------|--------|
| 5 | 災害発生又は切迫 | 命の危険 直ちに安全確保 | 緊急安全確保 |
| <警戒レベル4までに必ず避難> | | | |
| 4 | 災害のおそれ高い | 危険な場所から全員避難 | 避難指示 |
| 3 | 災害のおそれあり | 危険な場所から高齢者等は避難 | 高齢者等避難 |

※外に出ることが危険な場合は、自宅の2階などの屋内で安全を確保しましょう。
※令和3年5月頃改正予定の内容を記載しています。

災害に備えて どう避難すればいいの？

大雨・洪水の時はこうして避難

●足元に注意

水中の溝等に注意し、長い棒を杖代わりにして確認しましょう。道路は出来るだけ真ん中を歩きましょう。



●ロープにつながって

小さい子供などは大人とロープで体をつなぎましょう。



その他避難の時に注意すべきこと

●家に避難先、安否状況のメモを残す



●子供やお年寄りを安全に

足の不自由なお年寄りは背負い、小さい子供はベビーバスに載せる方法もあります。



●車は使わず、歩いて避難

あらかじめ決めておいた、よく知っている避難コースを通りましょう。



避難するときの服装のポイント

- ヘルメット等
- 長そで、長ズボン
- 長靴は水が入るとかえって動きづらくなるので×、水中でも脱げにくく歩きやすいひも靴は○
- 軍手、手袋
- 非常持ち出し袋

●ひざ上まで水につかると歩きにくくなります。

洪水の中での避難はできるだけ避けましょう。歩ける水の深さは50cm程度が限度です。



●危険なところは避ける

狭い道、川のそばは避けましょう。垂れ下がった電線には近づかないようにしましょう。

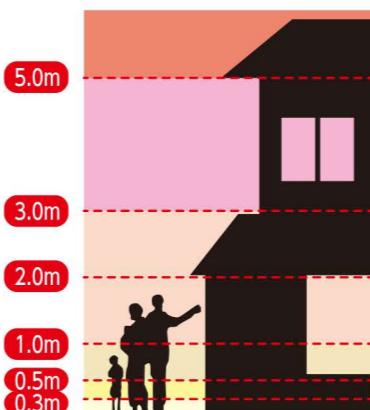


洪水に備えて

洪水ハザードマップ 浸水深の目安

| 2階の屋根以上が浸水する程度 | 5m以上の区域 |
|----------------|----------------------------|
| 2階まで浸水する程度 | 3.0~5.0m未満の区域 |
| 1階まで浸水する程度 | 1.0~3.0m未満の区域 |
| 床上浸水 | 0.5~1.0m未満の区域 |
| 床下浸水 | 0.3~0.5m未満の区域 0.3m未満の区域 |

浸水深：川本観測所の水位 20.3m を想定



●洪水ハザードマップは江の川が氾濫した場合の浸水状況をシミュレーションしたもので、水防法に基づき国土交通省が公表した想定最大規模の浸水想定区域により作成しています。

●氾濫の前提となる条件は1,000年に一度の大雨(昭和47年水害を超える規模)を想定し、江の川流域で48時間総雨量が441mm(平均)の雨量を想定したものです。

なお、川本観測所の水位が20.3mを観測した場合の浸水状況を示したものです。

●浸水深の例示は1,000年に一度の大雨(48時間総雨量441mm 川本観測所の水位20.3m)が降った場合に、川本町で浸水のおそれのある区域を浸水深ごとに色分けして示しています。

●支川の氾濫や内水による氾濫を考慮していないませんので、この想定と異なる浸水や、地図に示された区域以外も浸水することがありますので、ご注意ください。

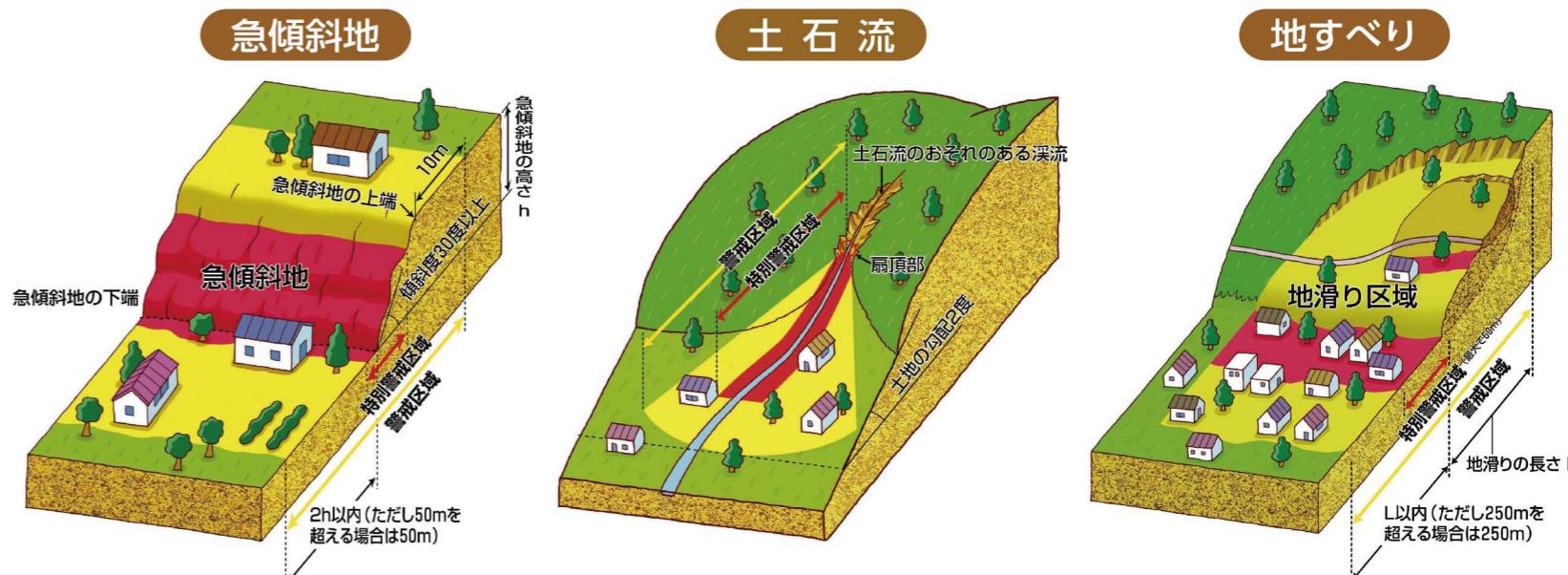
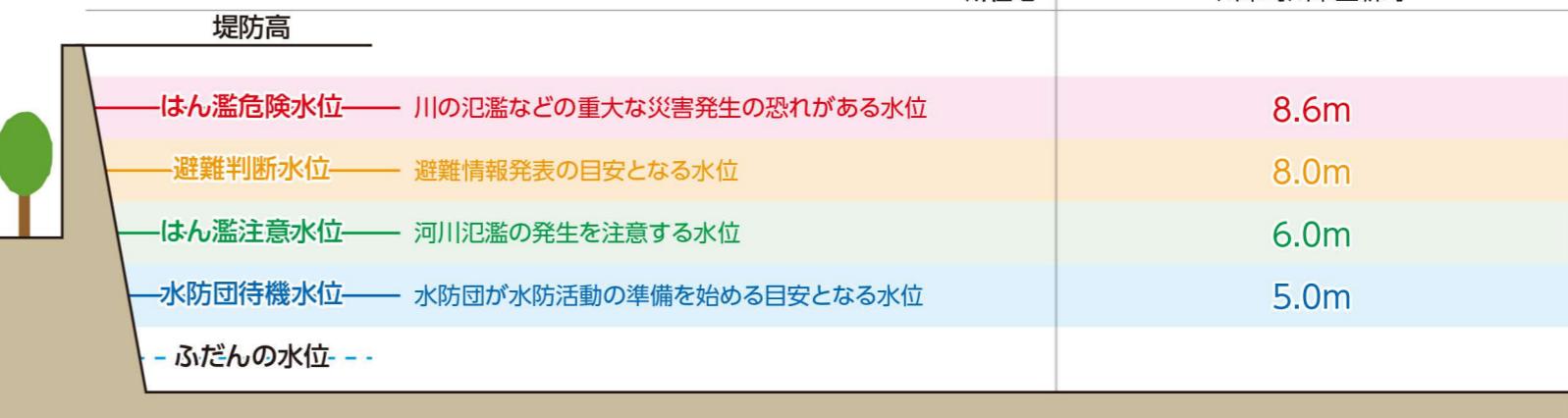
| 河川名 | 江の川 |
|------|----------|
| 観測所名 | 川本観測所 |
| 所在地 | 川本町川本上新町 |

8.6m

8.0m

6.0m

5.0m



土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがあるとも認められる区域。

■急傾斜地の崩壊

- ・傾斜度が30度以上で高さが5m以上の斜面
- ・斜面の下端から高さの2倍(最大50m)

■土石流

- ・土石流の発生するおそれのある渓流において、土石流が堆積する区間で、勾配が2度以上の区域

■地すべり

- ・地すべりするおそれのある区域
- ・地すべりのおそれのある区域下端から、区域と同じ長さの範囲(最大250m)

土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域。

- 国が定めた計算式に基づき、急傾斜地の崩壊等に伴う土石等の移動等により建築物に作用する力の大きさが、通常の建築物の耐力を上回る区域

情報の伝達と入手手段

川本町防災行政無線

川本町防災行政無線は、災害時や火災時に重要な情報を町民の皆様にお伝えする機械です。防災行政無線は町内16箇所に設置した屋外スピーカーと各家庭に設置した戸別受信機から気象情報や避難情報等の非常時に重要な放送を流しますので、確実に放送がながれるよう平時から防災無線（戸別受信機）の状況を確認しましょう。

●設置方法

「防災行政無線戸別受信機設置申込書」を総務財政課（☎72-0631）にご提出ください。
設置費用は無料です。

●放送内容

- 避難勧告等の避難情報の発令
- 気象情報（雨量、警報等）
- 江の川の水位情報
- 停電情報（中国電力）
- 火災発生情報、消防団の出動
- 全国瞬時警報システム（Jアラート）による緊急情報
 - ・緊急地震速報
 - ・弾道ミサイル情報等
 - ・土砂災害警戒情報 等



●戸別受信機の確認方法

■電源／着信のランプを確認してください

【緑色に点灯している】

受信機に不具合はありませんので、このままご利用ください。

【赤色に点灯している】

故障していますので、役場へご連絡ください。

【赤色に点滅している】

乾電池（乾電池単1、単2、単3いずれも可）の交換が必要です。

※「電池を交換してください」と音声が流れます

■昼12時のチャイム、夕方5時のメロディーが放送されていますか？

【チャイム、メロディーが放送されている】

電波の受信状況が良好ですので、このままご利用ください

【チャイム、メロディーが放送されていない】

電波の受信状況が不安定です。電波の状況を確認しますので、役場へご連絡ください。

※防災無線が聞こえない場合の主な原因は受信状況が不安定な場合が考えられます。

防災無線（戸別受信機）の位置を変えた際には受信状況が変わることもありますので、ご注意ください。



情報の伝達と入手手段

まげなねっとかわもと

町内に整備した光回線を利用した、光通信サービス（ひかり電話・インターネット回線）及び有線テレビ放送「まげなねっとかわもと」を提供しています。

光通信サービス加入世帯には「音声告知放送端末」を設置し、毎日朝と夜に町からのお知らせを放送しています。自主放送チャンネル「まげなねっと11チャンネル」では、行政情報や行事予定など暮らしに役立つ情報、県内外のケーブルテレビ制作の番組、町内で開催された公演・イベントの様子などを放送しています。

また、災害時には川本町防災行政無線と合わせて災害・避難情報等を放送します。

●加入について

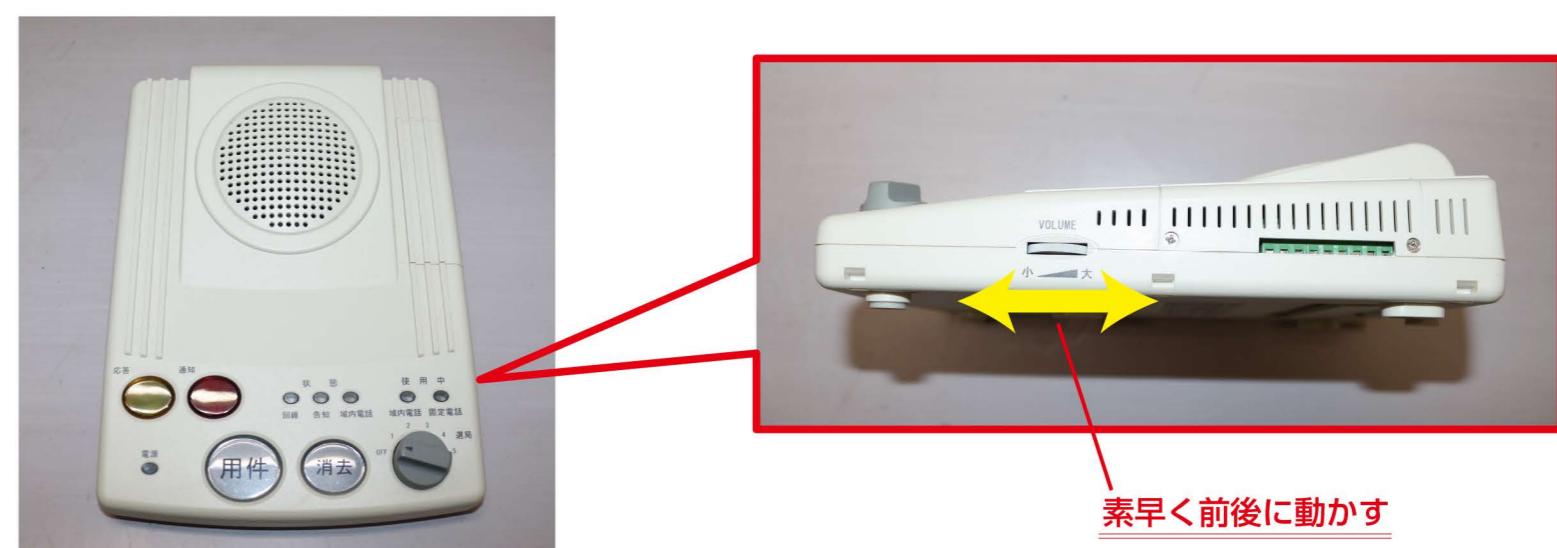
まちづくり推進課（☎72-0634）で加入申込の手続きを行ってください。

●費用について

サービス利用には、初期工事費・負担金、月額使用料が必要です。
ご加入のサービス内容により金額が異なりますので、まちづくり推進課にお問い合わせください。

●音声告知放送端末について

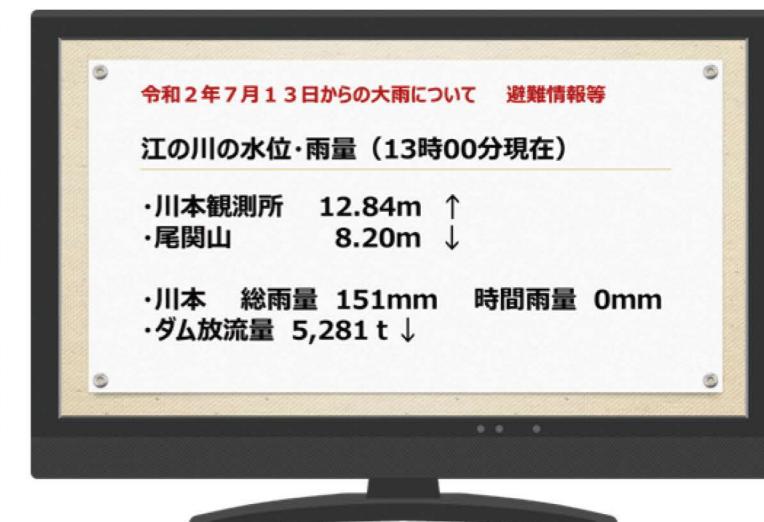
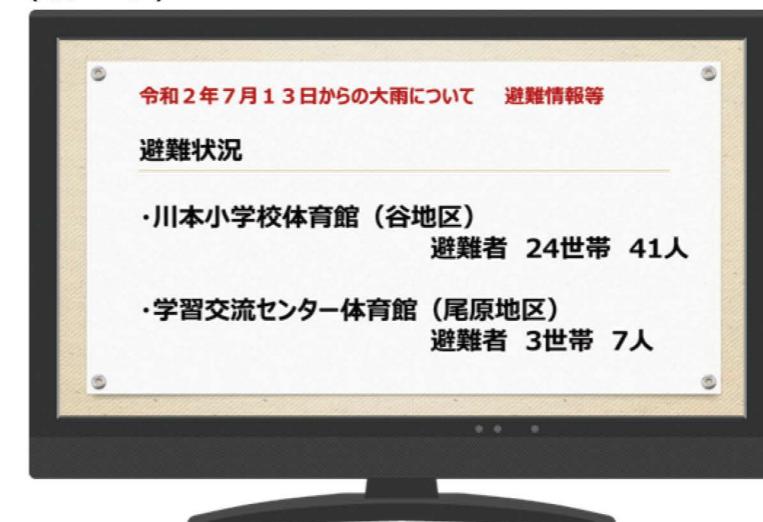
- ・放送された内容は、自動的に録音され端末の「用件」ボタン（緑色のランプ）を押すことで、いつでも確認できます。※過去10件分
- ・音声が聞こえない、大きくなったり小さくなったりする等の事象が発生した場合は、端末の側面にある音量ダイヤルをしばらく前後させてみてください。※画像参照
それでも改善されない場合は、まちづくり推進課にご連絡ください。



●「まげなねっと11チャンネル」における災害・避難情報の提供

災害発生時には、「まげなねっと11チャンネル」で避難情報等を放送します。

(イメージ)



江の川川本観測所の水位毎の浸水状況

平成30年7月豪雨及び令和2年7月豪雨の浸水状況を元に、水位毎の浸水状況を作成しました。

周辺の浸水状況を事前に把握し、早めの避難を心がけましょう。

※浸水する水位は目安ですので、ご注意ください。

| m | 浸水状況 |
|-----|--|
| 15 | <p>※川本堤防天端 (14.98m)</p> <p>14.21m 最高水位 H30年7豪雨</p> <p>【谷地区】朝霧館 床上浸水</p> <p>【被害状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・谷地区 床上浸水32棟 床下浸水5棟 ・尾原地区 床上浸水10棟 床下浸水1棟 ・因原地区 床上浸水12棟 床下浸水0棟 <p>合 計 床上浸水54棟 床下浸水6棟</p> |
| 14 | |
| 13 | <p>12.98m 最高水位 令和2年7月豪雨</p> <p>【谷地区】朝霧館 床下浸水</p> <p>【被害状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・谷地区 床上浸水12棟 床下浸水3棟 ・尾原地区 床上浸水 6棟 床下浸水2棟 <p>合 計 床上浸水18棟 床下浸水5棟</p> |
| 12 | <p>【尾原地区(久料谷)】家屋 浸水 約12.0m</p> <p>【尾原地区】木谷交差点～上尾原 国道261号 冠水 約12.0m</p> <p>【日向地区】町道 浸水 約12.0m</p> <p>【谷地区】県道仁摩邑南線 冠水 約12.0m</p> |
| 11 | <p>【谷地区】家屋、浜田橋 浸水 約11.5m</p> <p>【久座仁地区～多田地区】県道仁摩邑南線 冠水 約11.5m</p> <p>【谷地区】谷川橋 県道別府川本線 冠水 約11.0m</p> <p>【尾原地区】久料谷～瀬戸 国道261号線 冠水 約11.0m</p> |
| 10 | <p>【谷地区～日向地区】県道別府川本線 冠水 約10.0m</p> <p>【谷地区～天神町地区】町道 冠水 約10.0m</p> |
| 9 | <p>【木路原地区】美郷町境 県道川本波多線 冠水 約9.5m</p> <p>【因原地区】志谷橋 県道日貫川本線 冠水 約9.0m</p> |
| 8.6 | <p>氾濫危険水位 8.6m</p> <p>【谷戸地区】谷戸橋 県道川本大家線 冠水 約8.0m</p> |
| | 避難判断水位 8.0m |
| 6 | 氾濫注意水位 6.0m |
| 5 | |

自宅の災害リスクと災害時のるべき行動を確認しましょう

避難行動判定フロー

ハザードマップで自分の家がどこにあるか確認し、印をつけましょう。
土砂災害(P11～P32)と洪水(P33～P38)の両方を確認しましょう。

家のある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていない場所でも災害が発生するおそれがあります。町からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

【土砂災害のハザードマップで色が塗られている】
何色で色が塗られていますか？

赤色

→土砂災害特別警戒区域内(レッドゾーン)です。
生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがある非常に危険な区域です。

黄色

→土砂災害警戒区域内(イエローゾーン)です。
土砂災害のおそれがあり、注意が必要な区域です。

【洪水のハザードマップで色が塗られている】
住んでいる場所の浸水深は？

m

災害の危険性があるので、自宅の外に避難が必要です。

例外

①土砂災害の場合

堅牢な建物の上層階等に住んでいる場合は、自宅で安全確保をすることも可能です。

②洪水の場合

浸水する深さよりも高い場所で安全が確保できる場合や浸水しても概ね3日程度、水、食糧の備蓄があり、水が引くまで我慢できる場合は、自宅で安全確保をすることも可能です。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ

避難するタイミングは、「警戒レベル3 高齢者等避難」が発令されたときです。

はい

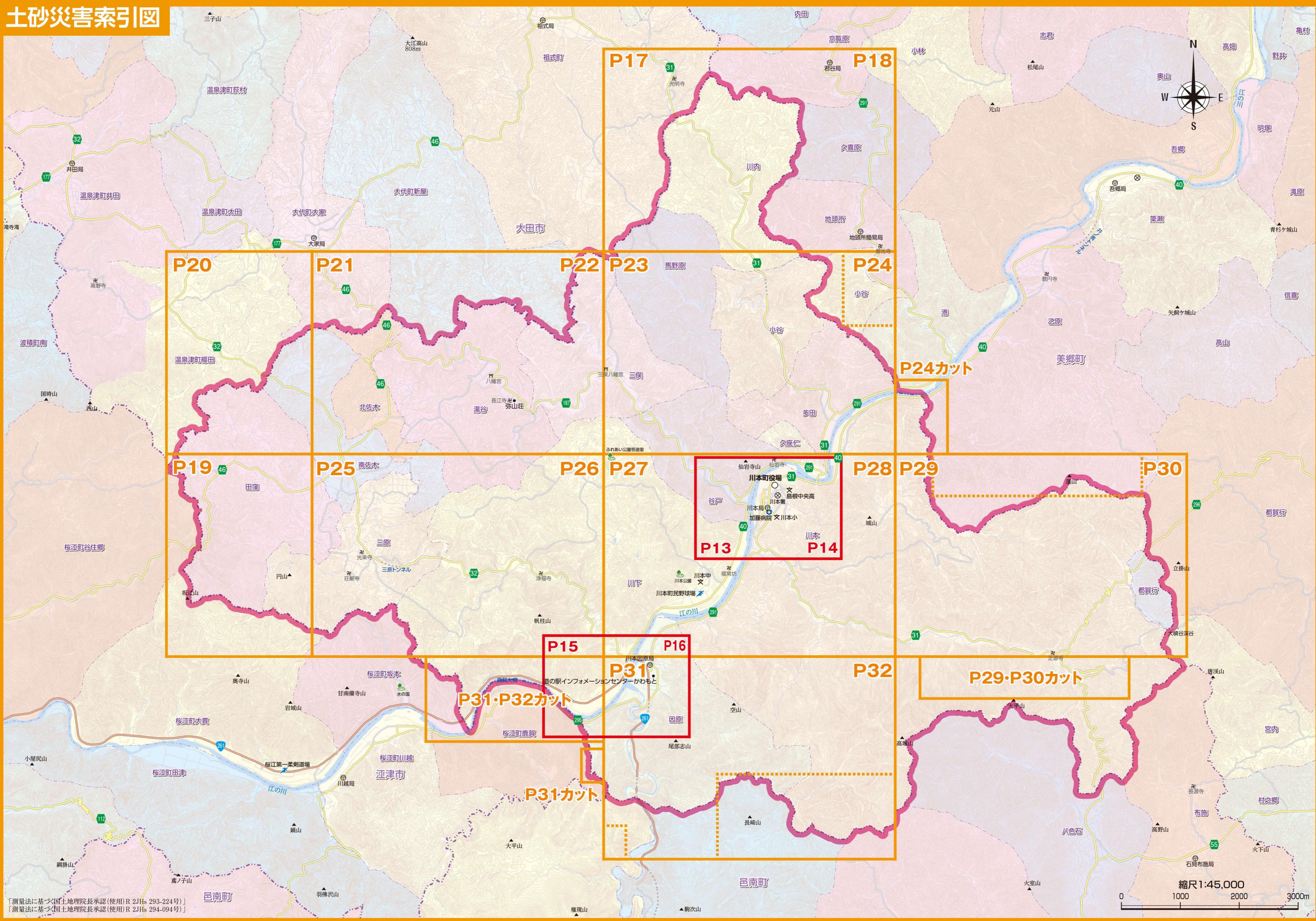
避難するタイミングは、「警戒レベル4 避難指示」が発令されたときです。

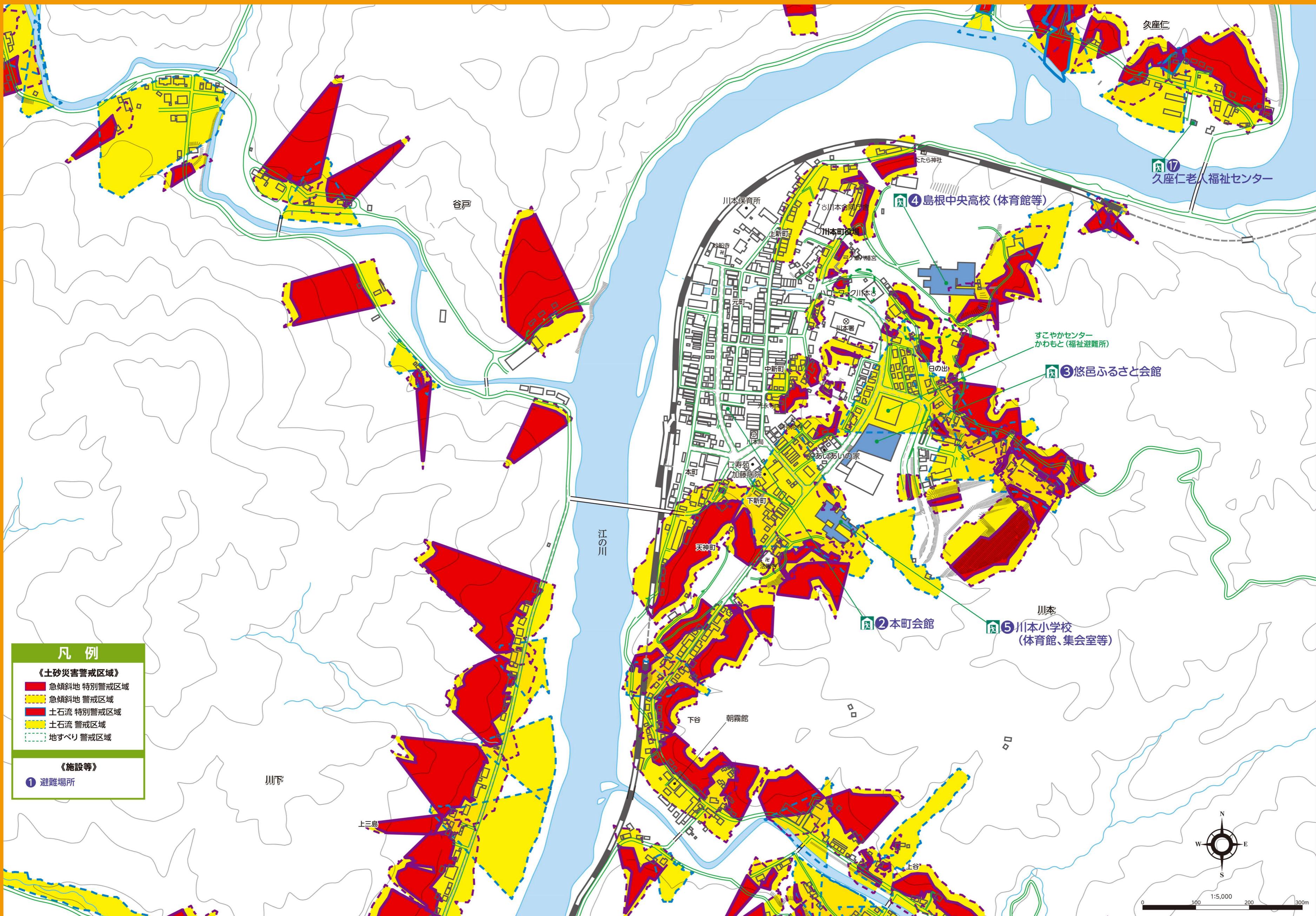
あなたが避難する場所を記入しましょう

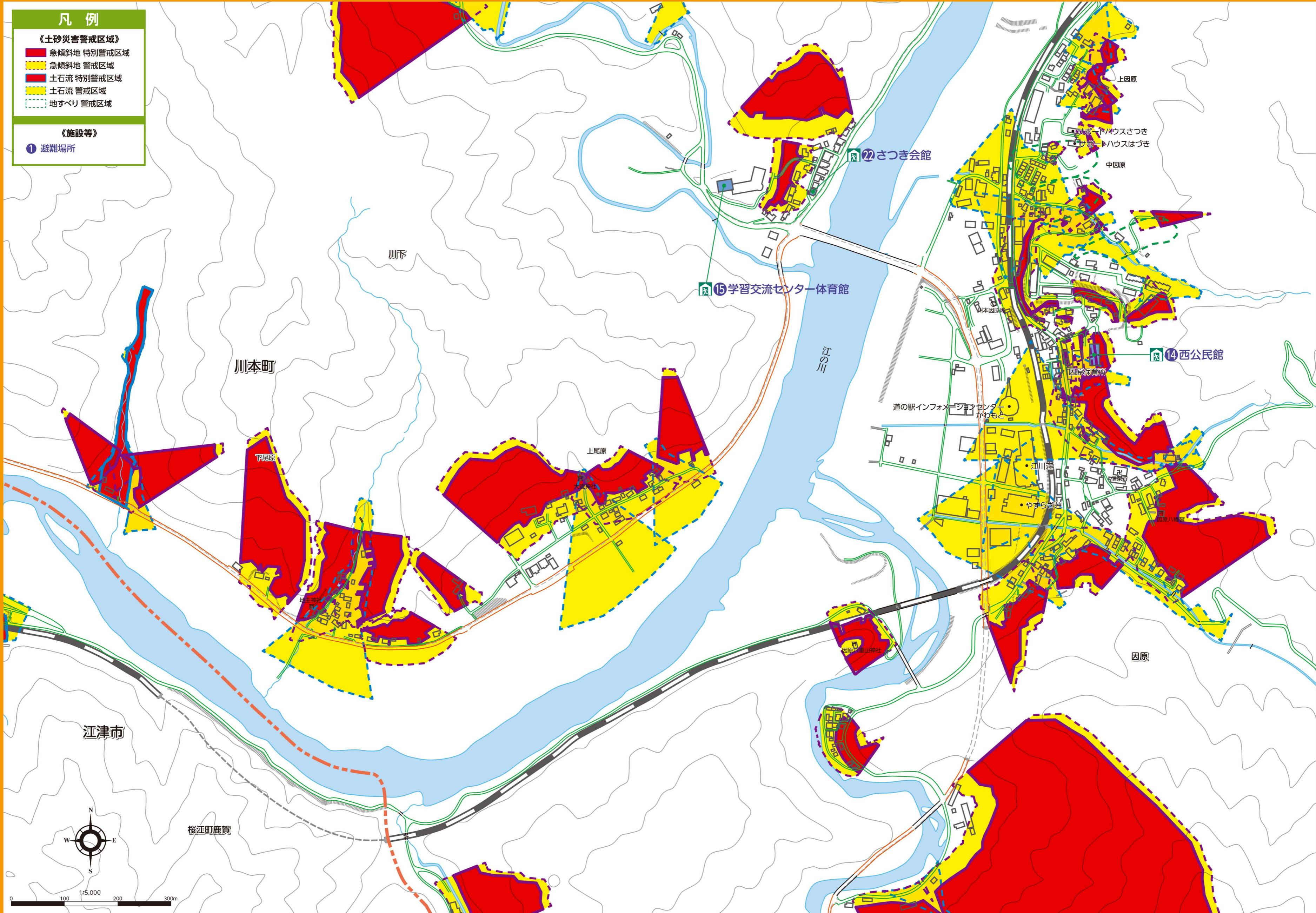
土砂災害の時：

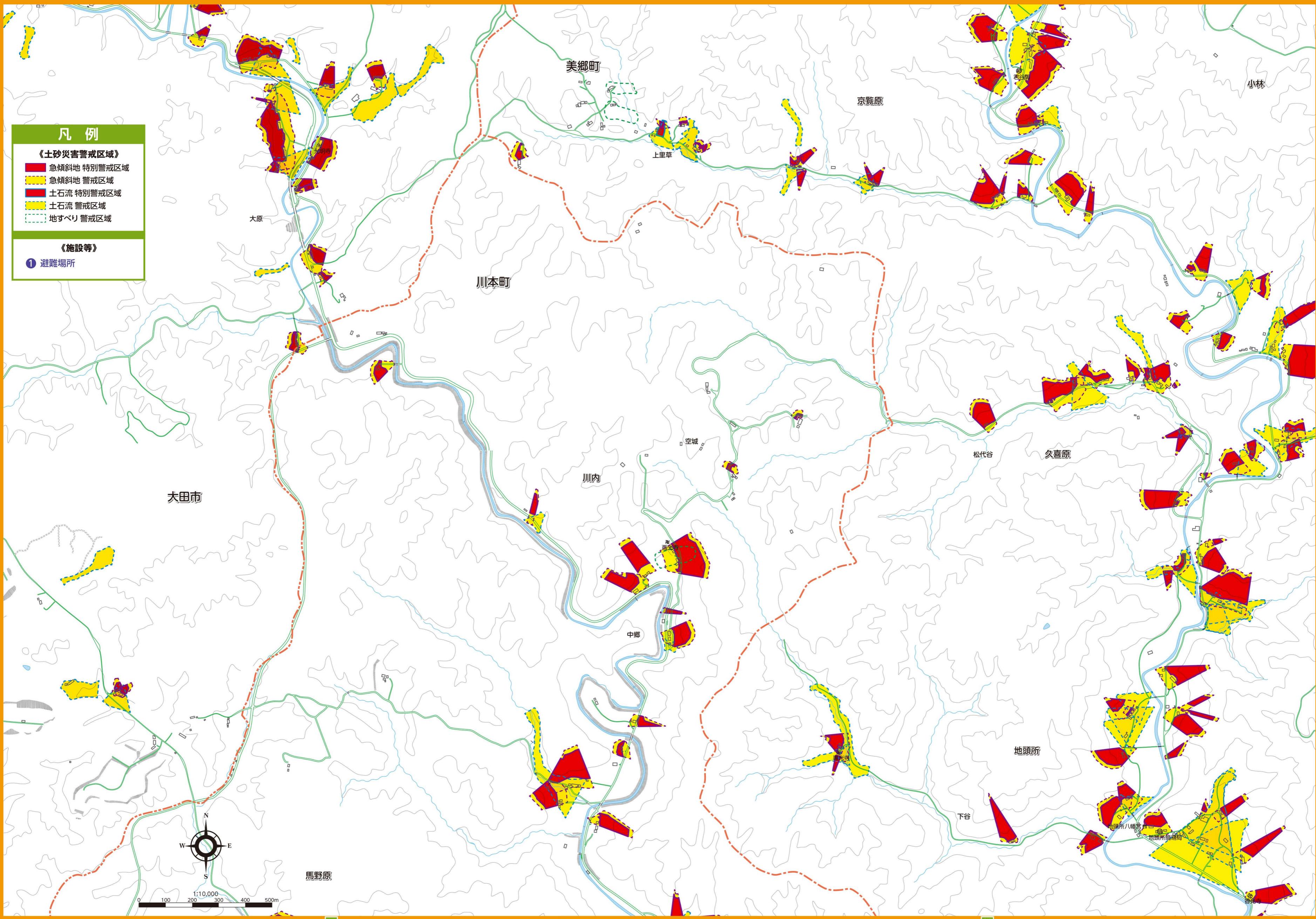
洪水の時：

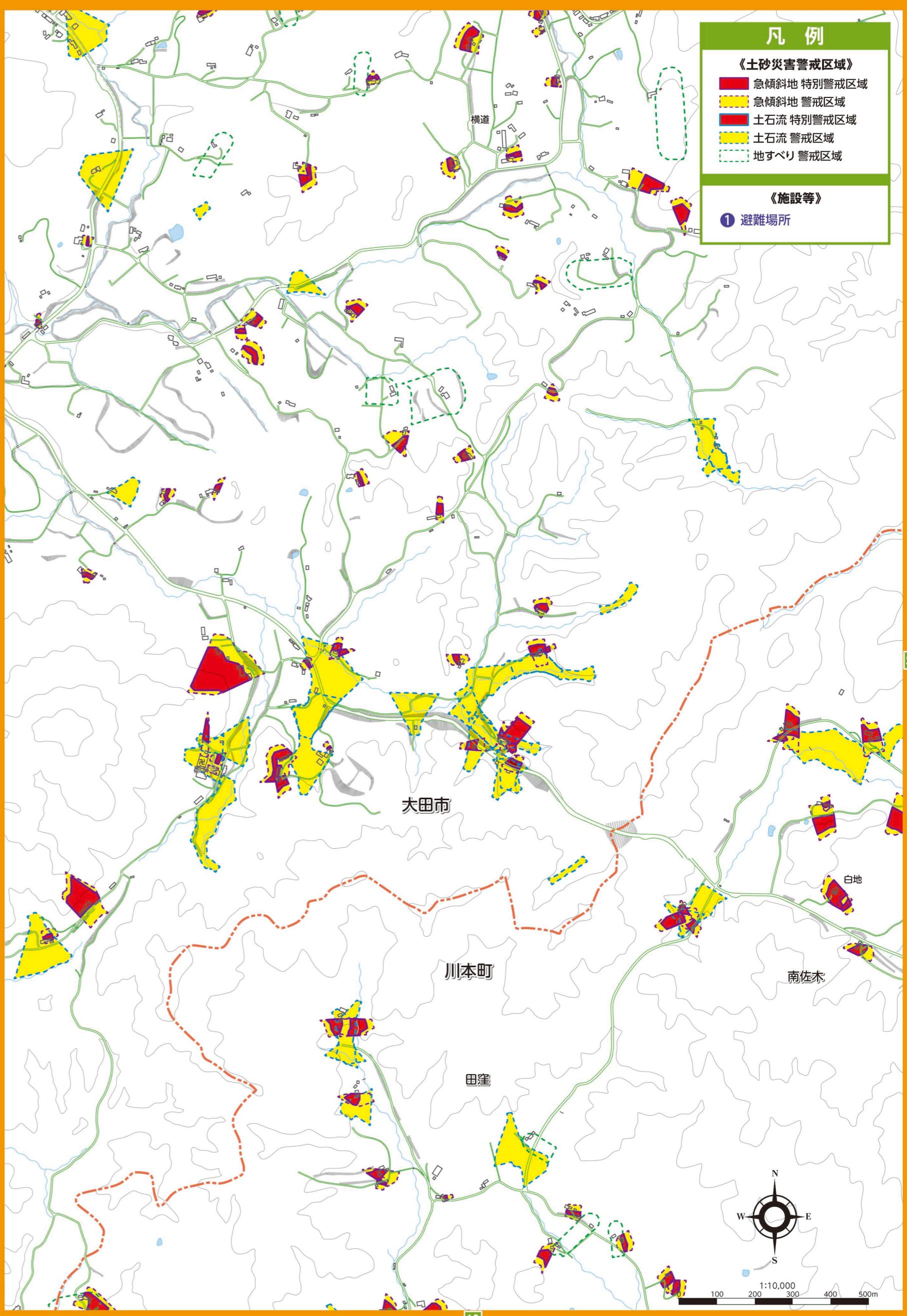
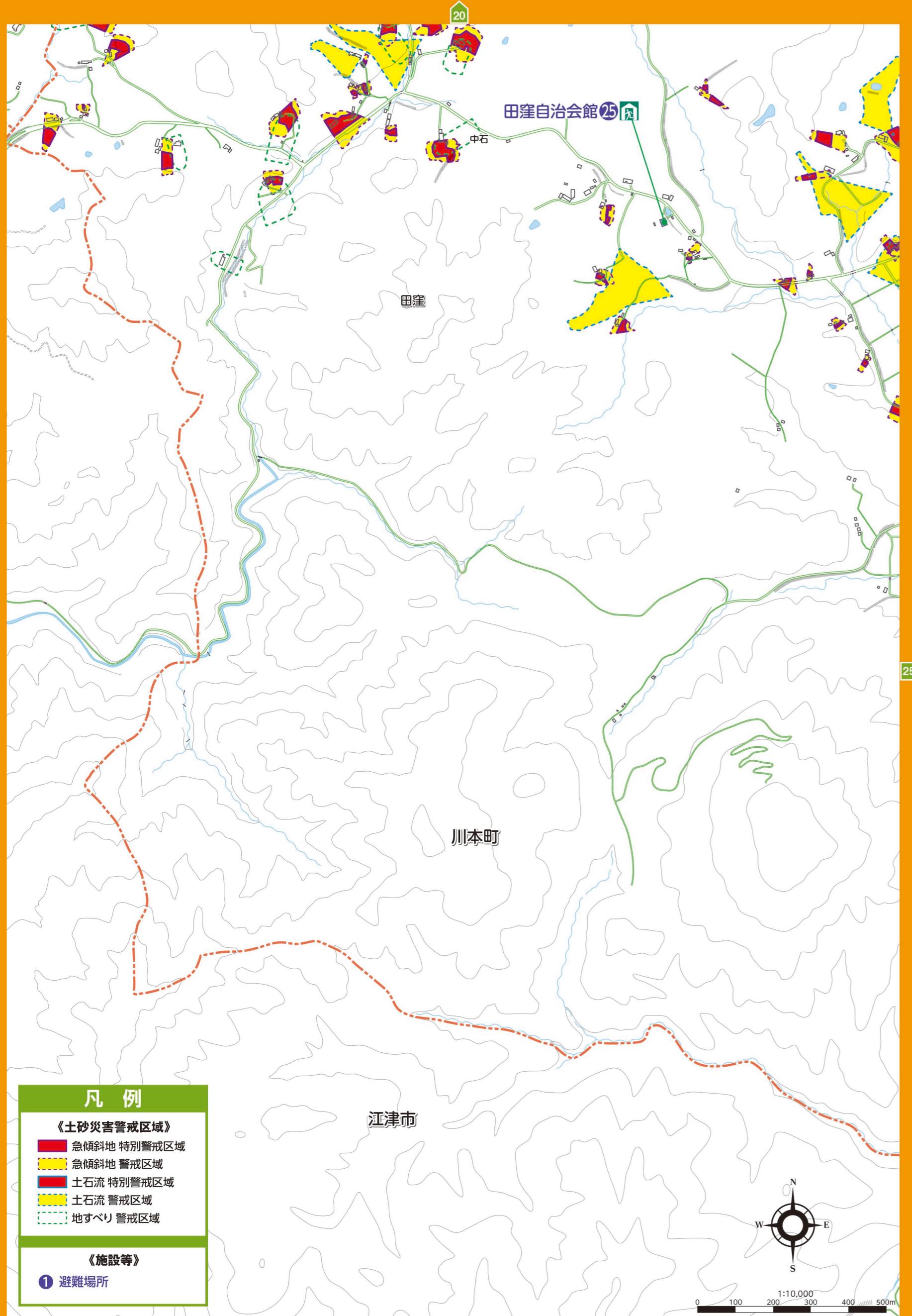
土砂災害索引図

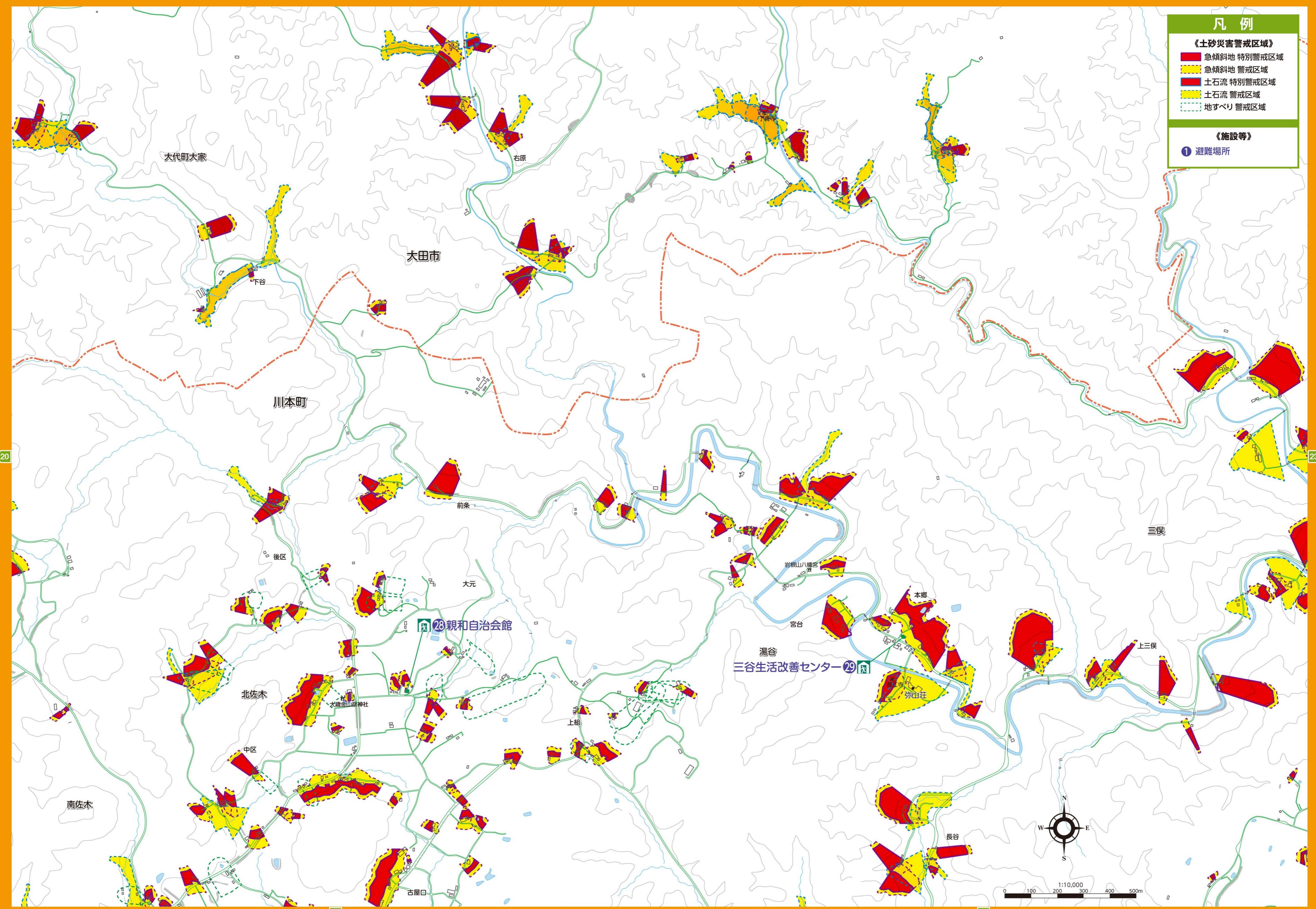


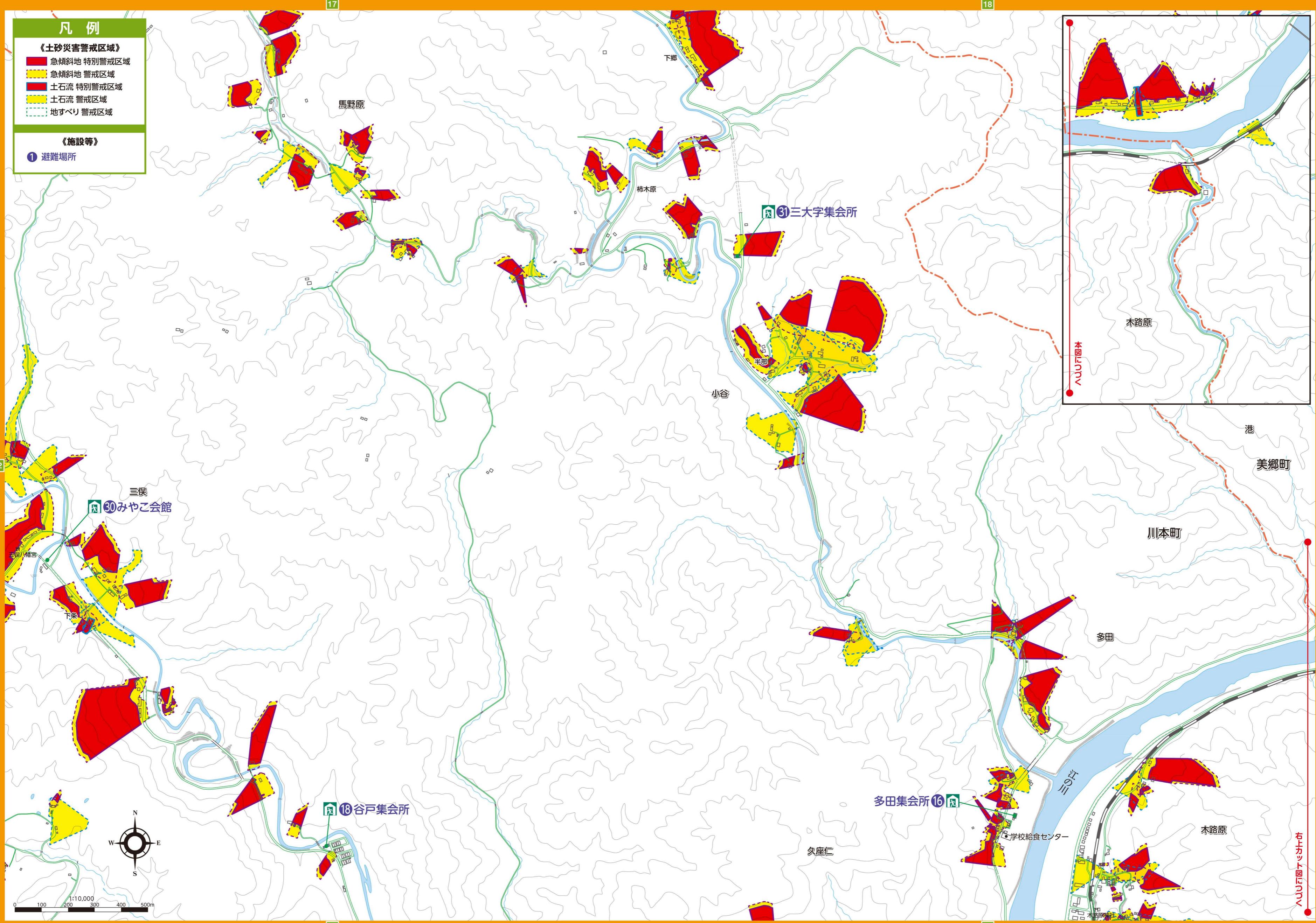


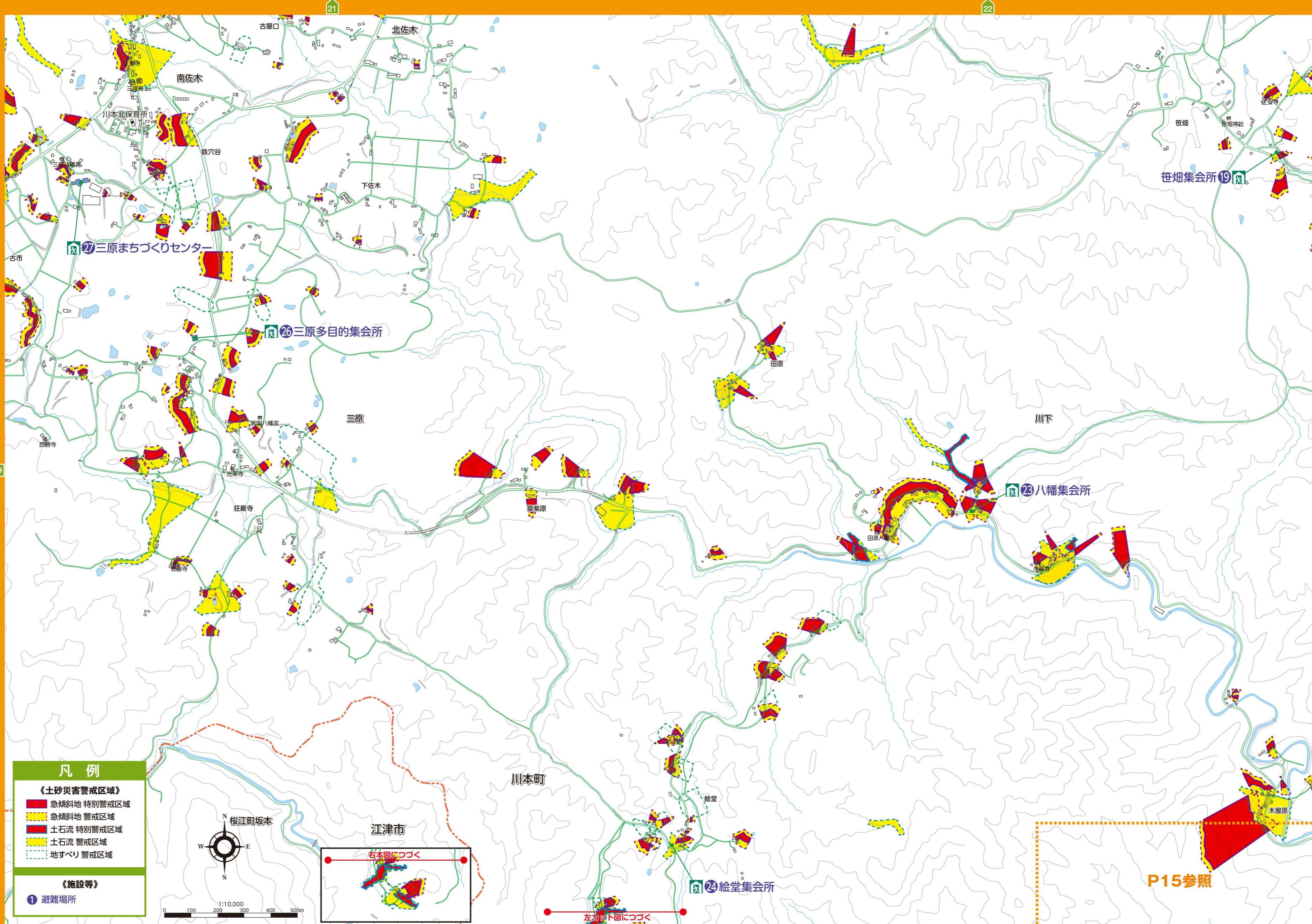


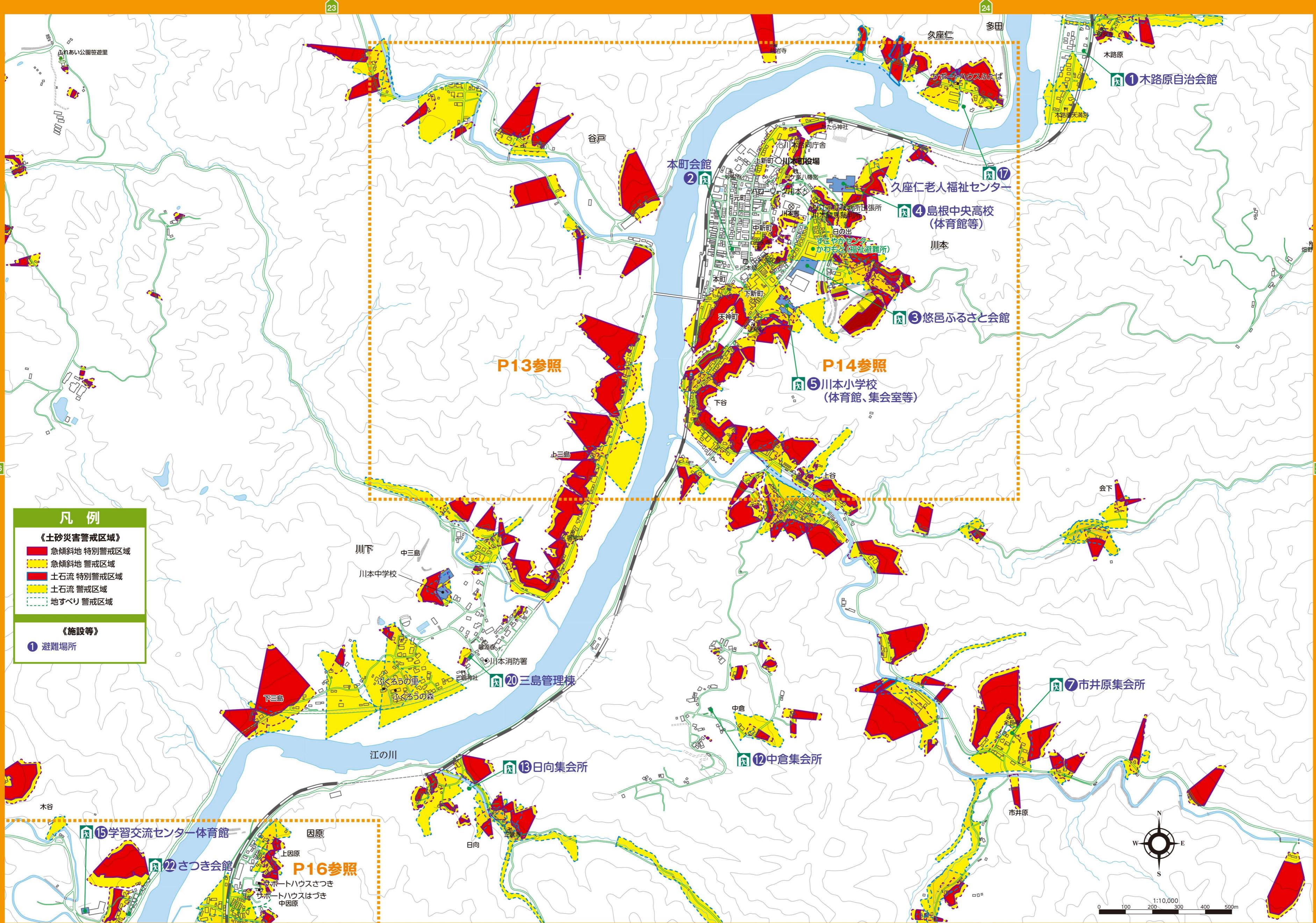


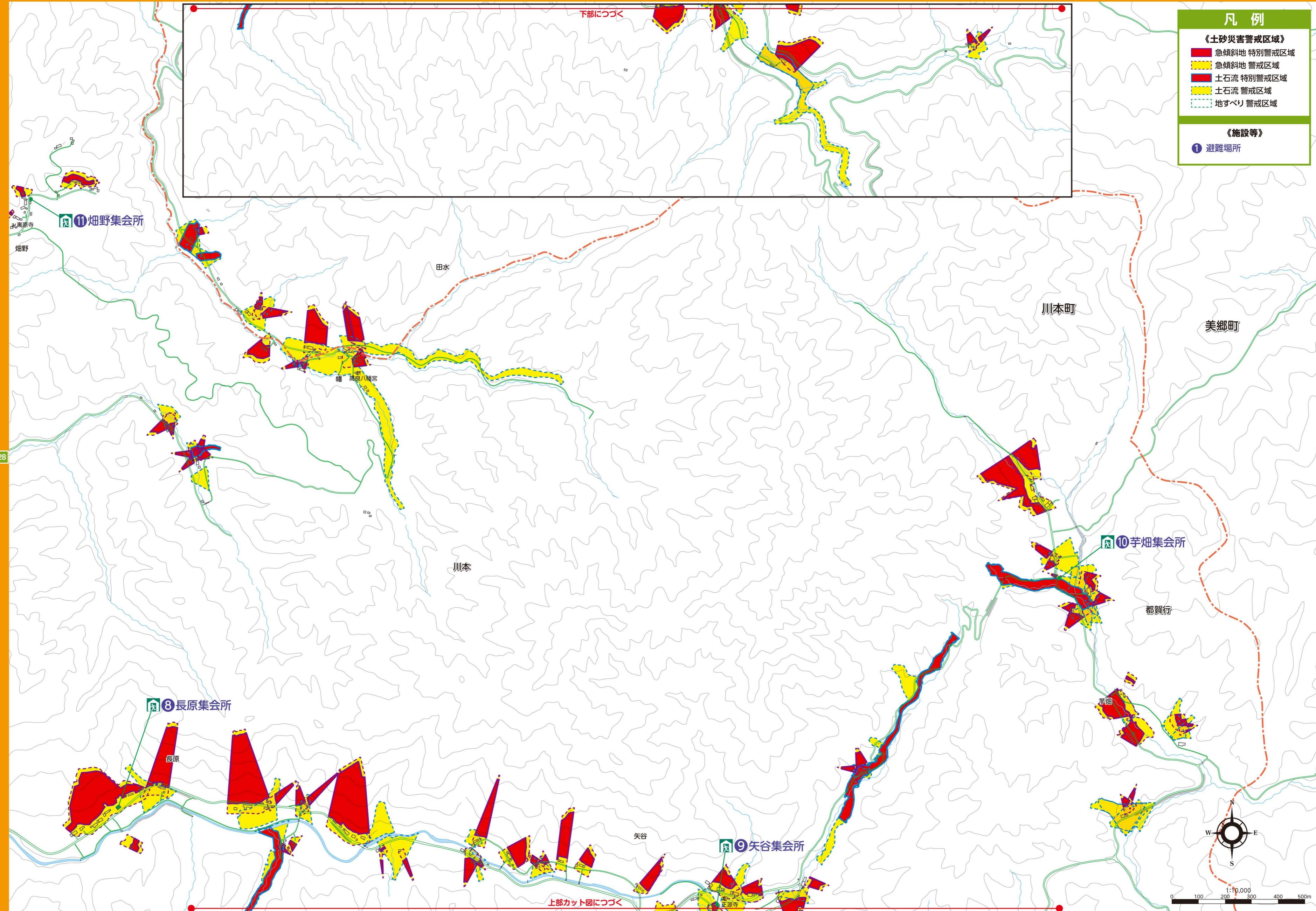


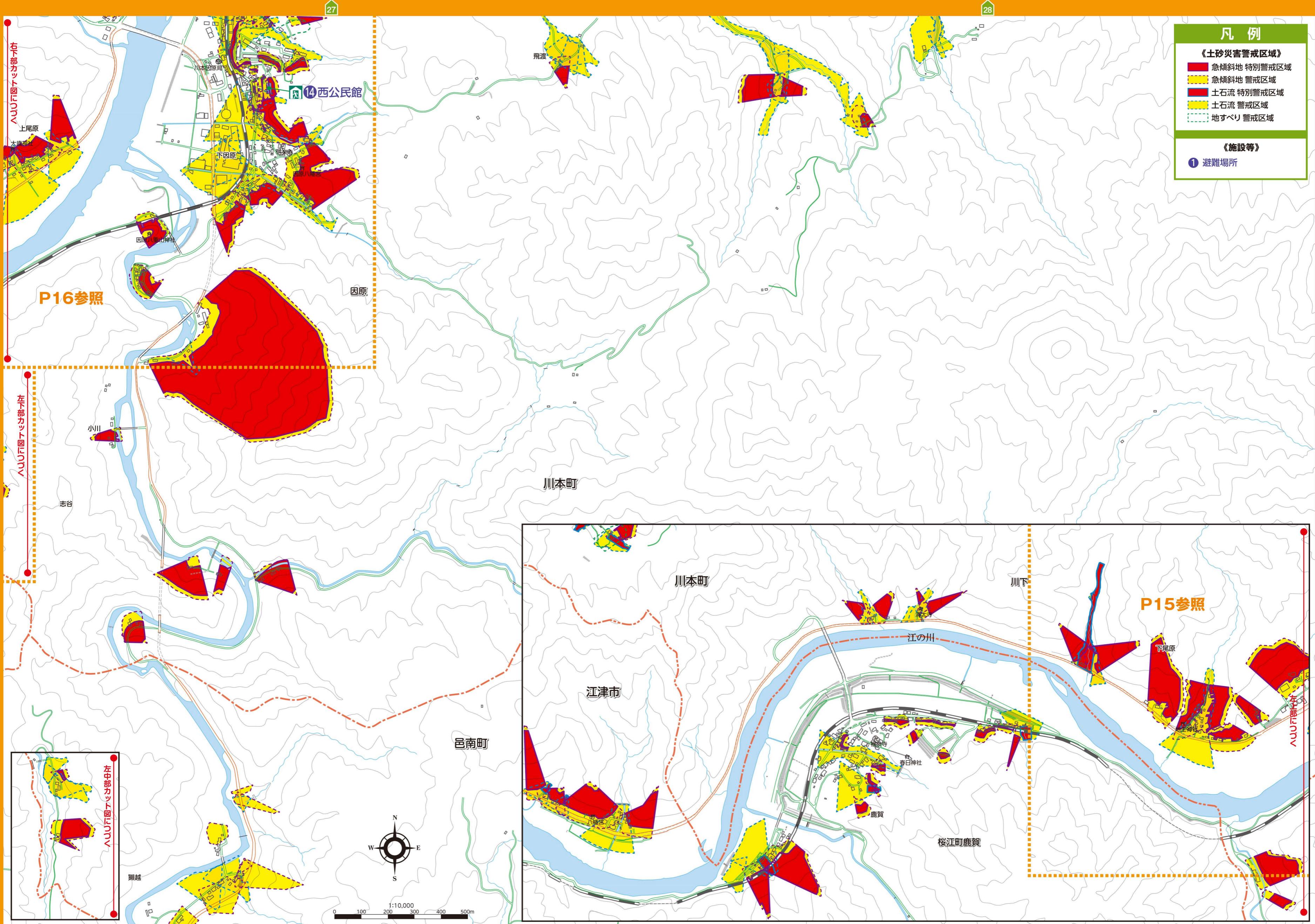




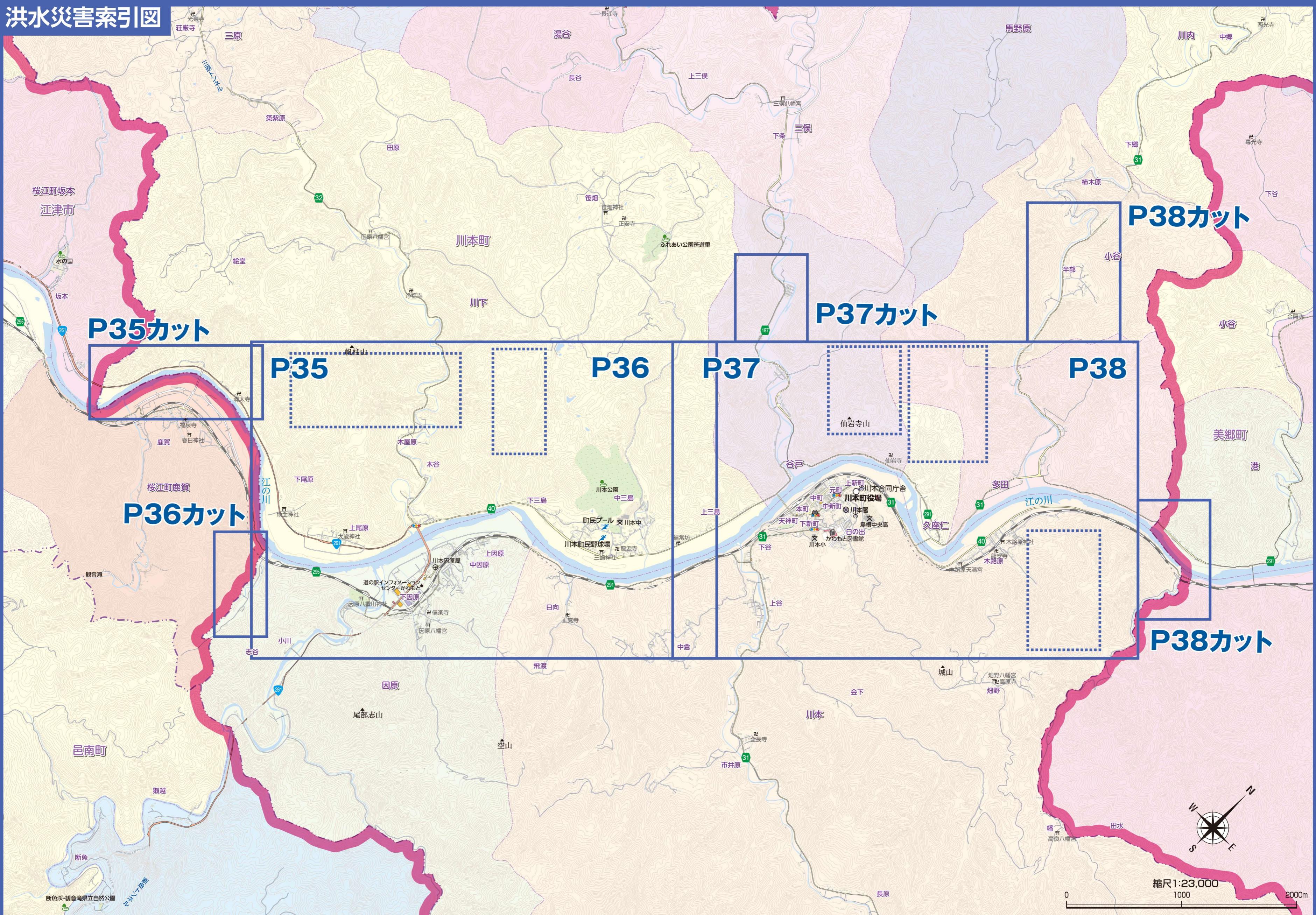


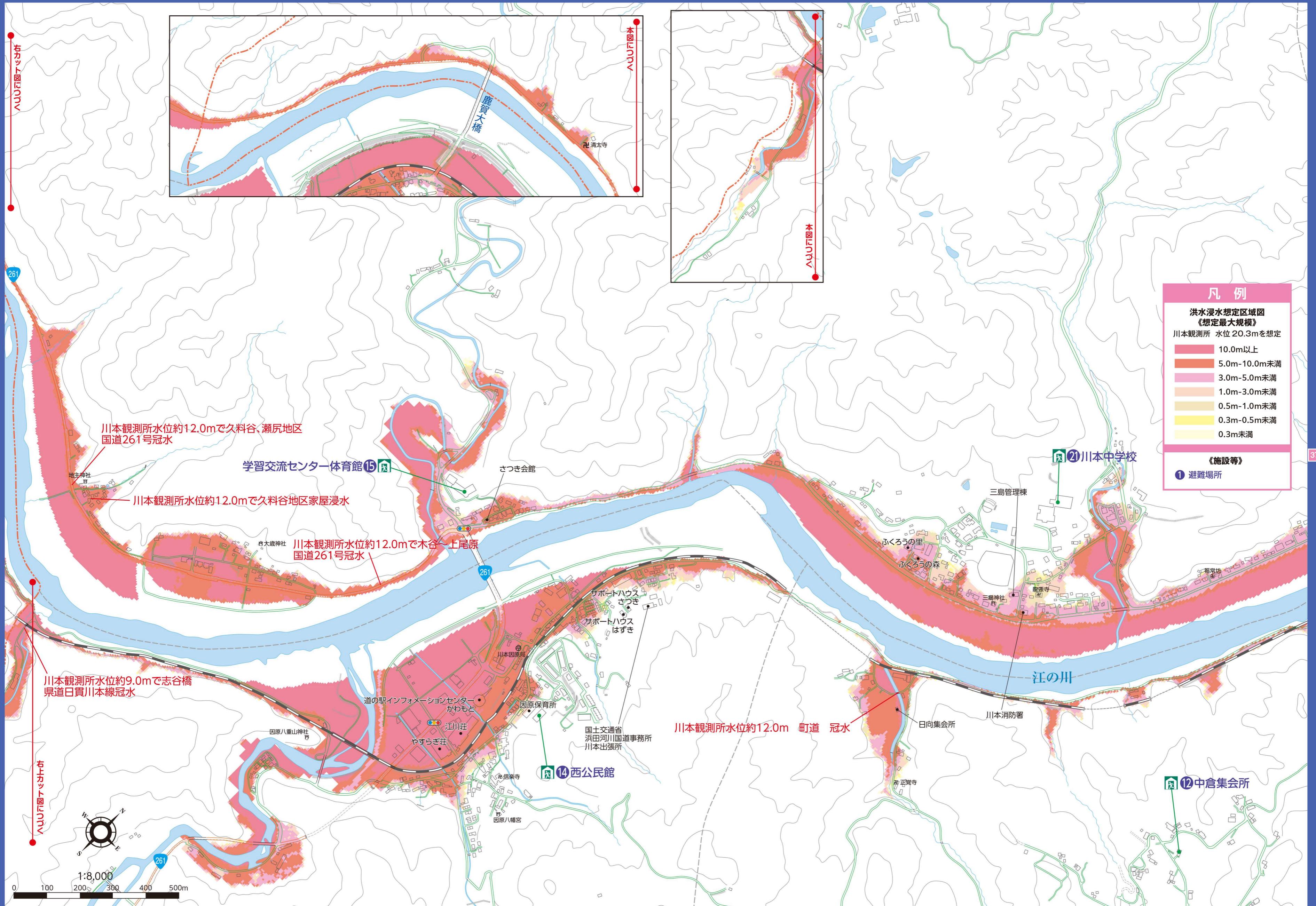


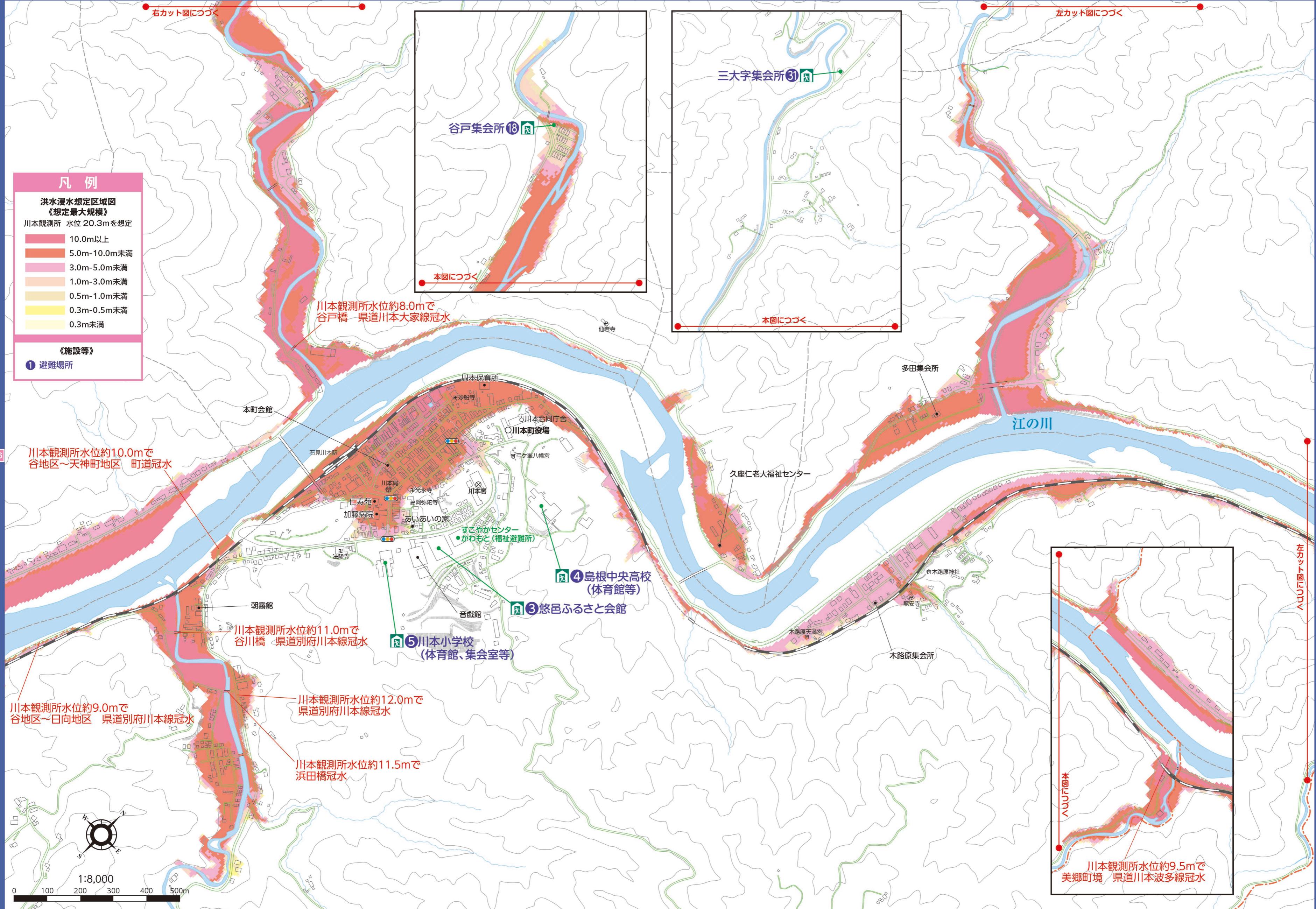




洪水災害索引図







風水害対策

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

雨の強さと降り方

大雨・洪水注意報

大雨・洪水警報
(土砂災害警戒情報)

大雨特別警報

10~20ミリ
やや強い雨

20~30ミリ
強い雨

30~50ミリ
激しい雨

50~80ミリ
非常に激しい雨

80ミリ以上
猛烈な雨

地面からの跳ね返りで足元が濡れる。

どしゃ降りで、傘をさしても濡れる。

バケツをひっくり返したように降る。傘をさしても濡れる。

ゴーゴーと滝のように降り、傘は全く役に立たなくなる。

息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。



1時間雨量
10mm以上20mm未満
やや強い雨

1時間雨量
20mm以上30mm未満
強い雨

1時間雨量
30mm以上50mm未満
激しい雨

1時間雨量
50mm以上80mm未満
非常に激しい雨

1時間雨量
80mm以上
猛烈な雨

- 雨の音で話し声が良く聞き取れない。

※長時間続く時は注意が必要。

- ワイパーを速くしても見づらい。

●側溝や下水、小さな川があふれる。

- 寝ていても雨の音に気付く場合がある。

●道路が川のようになる。

- 傘は役に立たない。

●車の運転は危険。

- 雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

やや強い風

平均風速10m/s以上15m/s未満

強い風

平均風速15m/s以上20m/s未満

非常に強い風

平均風速20m/s以上25m/s未満

猛烈な風

平均風速25m/s以上

- 風に向かって歩きにくくなる。

●傘がさせない。

●柵(とい)が揺れ始める。

- 風に向かって歩けない。

●転倒する人もいる。

●雨戸やシャッターが搖れる。

- しっかりと身体を確保しないと転倒する。

●風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。

- 立っていられない。

●屋外での行動は危険。

●樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。

台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

| 大きさ | 風速15m/s以上の半径 |
|-------------|----------------|
| 大型(大きい) | 500km以上800km未満 |
| 超大型(非常に大きい) | 800km以上 |

| 強さ | 最大風速 |
|-------|----------------|
| 強い | 33m/s以上44m/s未満 |
| 非常に強い | 44m/s以上54m/s未満 |
| 猛烈な | 54m/s以上 |

大雨などによる災害の種類

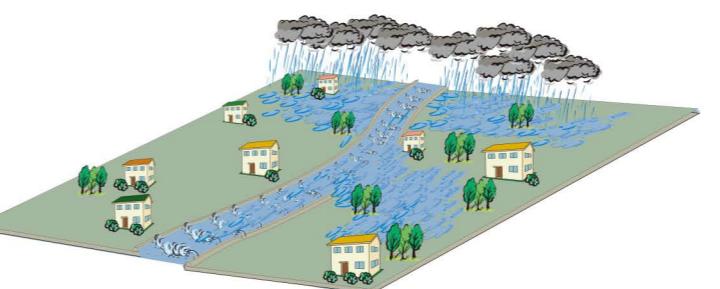
大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、身边に起こりえる災害に対応しましょう。

川の氾濫(浸水)

雨量の増加によってもたらされる氾濫(浸水)には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水による氾濫(浸水)」と、街中の排水が間に合わず、水路などからあふれ出す「内水による氾濫(浸水)」の2タイプがあります。

外水による氾濫(浸水)

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



内水による氾濫(浸水)

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、役場などの関係機関に連絡してください。日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。土砂災害の危険箇所については、本書(P13~P32参照)の土砂災害警戒区域を確認してください。

急傾斜(がけ崩れ)



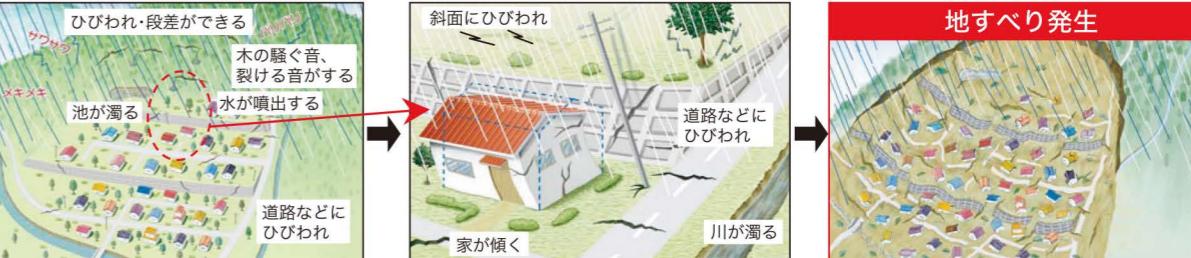
土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地滑り

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象をいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すると、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

非常時持出品の準備&チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

非常時持出品(例)

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

携帯ラジオ・懐中電灯



- ラジオ
- 懐中電灯(出来れば一人にひとつ)
- 電池(多めに用意)

救急医療品



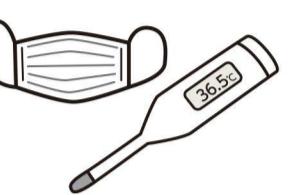
- 常備薬
- 傷薬
- 風邪薬
- 鎮痛剤

貴重品



- 現金
- 免許証
- 印鑑
- 健康保険証
- 預金通帳

感染症対策用品



- 絆創膏
- 包帯
- 胃腸薬
- お薬手帳

非常食品



- 火を通さないで食べられるもの、食器など
- カンパン
- 非常用食品
- 缶切り
- 紙皿
- 水筒

その他



- 衣類(下着・上着など)
 - 生理用品
 - 離乳食
 - ウェットティッシュ
 - ヘルメット
 - ラップフィルム
- (止血や食器にかぶせて使う)
- タオル
 - 粉ミルク
 - 紙おむつ
 - カッパ
 - ライター
 - 防災マップ(本書)

非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェック✓しましょう。

飲料水



- 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)
- 貯水した防災タンクなど

非常食品



- お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフルーツ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃 料



- お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利)
 - 缶詰・レトルト食品
 - 梅干し・調味料など
 - ドライフルーツ・チョコレート・アメ(菓子類など)
- 卓上コンロ
 - ガスボンベ
 - 固形燃料
- 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
 - 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
 - 調理器具(なべ・やかんなど)
 - バケツ・各種アウトドア用品など

その他の備蓄品



非常時持出品は定期的に点検を!

いざというときに支障がないように、食品類の賞味期限や持出品の不備を定期的に点検しましょう。

避難生活が長引くときに便利なもの

携帯トイレ、使い捨てカイロ、裁縫セット、ガムテープ、地図、筆記用具(マジックなど)スコップなど。

阪神・淡路大震災で役に立ったもの

ポリタンク、ホイッスル、予備の眼鏡・補聴器、ビニールシート、新聞紙、補助用具としてロープ、スコップ、バールやハンマー、のこぎり、車のジャッキなど。

わが家の「防災・緊急情報」メモ

非常時・緊急時に連絡してほしい方や、利用してもらいたいわが家の情報を。

災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関・町に情報を提供します。

| | | | |
|----|--|----|--|
| 氏名 | | 電話 | |
| 住所 | | | |

| | | |
|--------------------|------|--|
| 避難場所 | 土砂災害 | |
| | 洪水災害 | |
| 家族が離ればなれになった時の避難場所 | | |

| 家族構成連絡先 | 氏名 | 生年月日 | 電話(携帯・会社・学校) | 住所 | メモ |
|---------|----|------|--------------|----|----|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

| 家族の緊急情報・救急メモ | 氏名 | 血液型 | 持病・アレルギー | 常備薬 | かかりつけ医療機関 |
|--------------|----|-----|----------|-----|-----------|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

【メモ】※書ききれなかった内容や、知っている情報を(介護情報・救急隊員への伝言など)をお書きください。

| 緊急時連絡先 | 氏名 | 間柄 | 電話 | 住所 | メモ |
|--------|----|----|----|----|----|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

災害用伝言ダイヤル(171)の使い方

災害用伝言ダイヤルとは?

NTTでは、災害発生時に、被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否等の情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。

| | | | |
|-------|-----------------------------|--------|---------------------------|
| 伝言の録音 | 171-1-0000-00-0000(相手の電話番号) | 伝言保存期間 | 録音してから提供期間終了まで |
| 伝言の再生 | 171-2-0000-00-0000(自宅の電話番号) | 伝言蓄積数 | 1電話番号あたり1~20伝言まで |
| 伝言内容 | 1伝言あたり30秒以内 | 利用可能電話 | 固定電話、IP電話(050含む)、携帯電話、PHS |